

EPOCHMAKER

豊島区立男女平等推進センター(エポック10) 情報誌

えぽっく・めいかに

2007.10 No.32

いつでも どこでも だれでも

読み聞かせ

～他者への共感、他者への想像～



画：修理 しをり

「読み聞かせ」と一言でいっても、ただ自分勝手に本を読むということではなく、聞いてくれる相手があって初めて成り立つことです。また、聞こえてくる言葉から情景や気持ちなどいろいろと想像することで、読み手と一緒に世界を広げることも可能です。

誰もが他者の気持ちを思いやったり、他者の痛みを想像することができれば、暮らしやすい社会になるのではないのでしょうか。こんな視点でも「読み聞かせ」について考えてみませんか？



Epoch 10

限りない飛躍、可能性

- ◆いつでも、どこでも、だれとでも「読み聞かせ」
～その活動の中で～ 読み聞かせグループの紹介
- ◆70年代から受け継ぐ親子読書会活動、これからも
- ◆韓国の読み聞かせ事情
- ◆こんな本はいかがですか？
- ◆「読み聞かせ」体験スポット
- ◆エポック10情報

P2-3
P4
P5
P6
P7
P8

いつでも どこでも だれとでも 「読み聞かせ」～その活動の中で～

- Q1 「読み聞かせ」に関ったきっかけ、動機
- Q2 「読み聞かせ」活動の中で感じること
- Q3 「読み聞かせ」活動を始めてからの自分の変化
- Q4 「読み聞かせ」活動で工夫していること、苦労していること

よみがたりグループ おはなしりんご

「おはなしりんご」で活動しながら、手作り絵本の制作もする佐藤園生さんと佐藤貴子さんに伺いました。

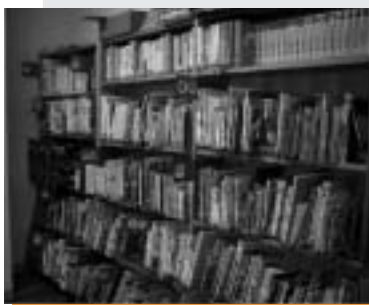


7月12日(木) 午前
《区民ひろば 西巣鴨》にて

- A1 子どもの入園（豊島区立西巣鴨幼稚園）がきっかけ。スローガンは「絵本をきっかけに語り合しましょう」
- A2 子どもたちが本の世界に引き込まれるのがよく分かる。子どもは絵本を読んでもらうことが大好き、本離れしてしまっているのは大人だと思う。
- A3 子どもたちのためではあったが、一緒に聞いていると自分（親）も癒される。大人が子どもに聞かせたいと思う本と子どもが読んで欲しい本が違うこと。同じ本を繰り返したり大きくなって小さい子向けの本が好きだったりすることも、子どものその気持ちを大切に思うことでいいんだと学んだ。
- A4 絵本の内容を忠実に再現するのにふさわしい方法（パペット・ペープサート・パネルシアターなど）を選び、ただ絵本を読み語るのとは違った視点で作品を上演している。元になる絵本を子どもたちがみた時に「そのまま動いている」と感じてもらうことが一番だと思っている。絵本作品に忠実であることにこだわっている。（取材 飯田）

幼稚園では「豊島区立西巣鴨幼稚園」の場合

西巣鴨幼稚園では、いろいろな子どもの姿を知ってもらい、子育ての楽しさを共有することを目的に毎週水曜日に園児の保護者の方々の協力による「読み聞かせ」の時間を取っています。有志によるよみがたりグループ「おはなしりんご」もあり、園行事の誕生会やクリスマス会に参加しています。園内には絵本・紙芝居・幼年童話など約3000冊の蔵書の充実した図書コーナーもあり、園児たちへの貸出も積極的に行っています。副園長の大森理枝子さん、5歳児クラス担任の齋藤夫佐子さん、4歳児クラス担任の大石悠子さんにお話を伺いました。



7月19日(木) 午後
《西巣鴨幼稚園》にて

- A2 絵本が好き、喜んで見るという子どもの本質は変わっていない。好きな本も男女の違いはほとんどない。子どもの方が本物を見極める力を持っている。ことばが豊かになり世界が広がったり、相手の気持ちも分かるようになってくる。読んでくれる人とのつながりが深くなる。
- A4 感じたことを大切に、子どもの心を豊かにさせたい。子どもが文字を読めるようになって、保護者には読んでもらうよう伝えている。母親たちが読み聞かせをするうちに子育てが楽しくなったなど、変化がみられる時が嬉しい。日本の作品、外国の作品、社会科学、自然など様々な分野のものに取り組むようにしている。大げさな声色を使わず正確に読んで絵本の持つ力を生かす。

直接、その現場へ出かけて、「読み聞かせ」を活動として取組んでいる方たちにいろいろとお話を伺ってきました。

それぞれ、活動をしている場所に違いはありますが、相手を感じ、思いやること、また、取組んでいる自分自身も力づけられるなど共通することも多いようです。

※各グループではそれぞれ思いを込めて「よみがたり」「朗読」などと表現しています。

地域の中で

おはなし ぱたぽん

区民ひろば富士見台で毎月1回、幼児向けに「おはなし会」を行っている菅原登喜子さんと七野玲子さんにお話を伺いました。

- A1 茗荷谷の子どもの本専門店『ぴっぴ』で出会い、お話し会「ぱたぽん」の活動を始めた。本のことを話出すと止まらない二人だった。『ぴっぴ』閉店後は児童館職員の勧めもあり、10年前に東池袋児童館で立ち上げた。
- A2 子どもは皆、お話が大好き。初めは落ち着かない子も、話に吸い込まれるように夢中になり耳を傾け、目を輝かせる。リズムのあることばの響きが心地良いのか、うたた寝する子も。毎日いろいろなことがあるが、お話を声に出して読むと自分自身の心が落ち着く。ことばには癒す力があると思う。愛情やぬくもりがことばによって伝わり、大きな安心感をもたらしてくれる。
- A3 10年前からずっと同じ気持ちで活動している。「自分が面白いと感じたお話をたくさんの人に自分の声で伝えたい」
- A4 お話だけでなく、手遊びやわらべ歌などを組み合わせた構成に工夫している。10倍の時間をかけて準備をするが、楽しい作業で達成感がある。私たちは物語の力を借りて想像する楽しみや相手を思いやることを伝えたい。生の声で話せば相手に伝わり、つながることができると思う。(取材 大谷)



7月18日(水) 午後
《区民ひろば 富士見台》にて

高齢者施設で

毎月、第4水曜日の昼下がり、高齢者施設『アブランドル向山』の食堂に文学作品を朗読する女性の声が穏やかに流れます。丁度、この日は辰巳千和子さん、木内晶子さん、上村淳子さんによる「山本周五郎」「藤沢周平」作品の朗読でした。

- A1 幼稚園教諭時代も子どもたちに語りを大事にしていたが、大人に向けて取組みたくなかった。カルチャーセンターで学び、自主的に仲間と共に続けて発表の場をもっている。
- A2 自分だけのことではなく聞いて下さる方とその場と時間を共有する雰囲気。相手の心に届いているか、独りよがりになっていないかと考える。
- A3 常に「朗読」のことが頭の片隅にあり、題材を探している、「生きがい」の一つでもある。相手があるということで自分の体調管理により気をつけるようになった。上達したいという意欲も出てきたので、勉強する機会が増えた。
- A4 場所・相手・環境などに合わせ作品選びにはストーリーに深みがあり、実感できるものを心がけている。時間の制約がある場合は作品を編集することもあるが、それが難しい。



7月25日(水) 午後
《アブランドル向山》にて

入居者で朗読会を担当されている永田和子さんと青柳八重子さんからは、一読書が好きだったが、視力の衰えもあるので、朗読で小説が楽しめるのは嬉しい。生の声の朗読だと、読み手と聞き手の「キャッチボール」ができてよい。一というお話もありました。

70年代から受け継ぐ親子読書会活動、これからも

- 1960 (昭35) 新安保条約批准、交換、発効
閣議で国民所得倍増計画を決議
- 1964 (昭39) 東海道新幹線開業
東京オリンピック開催
- 1966 (昭41) カー、クーラー、カラーテレビの
3Cブーム起こる (新三種の神器)
- 1967 (昭42) 「国民生活白書」国民の九割が
中流意識をもつと発表
- 1970 (昭45) 公害の深刻化に伴い消費者運
動、反公害運動高まる
大阪で万国博覧会開催
- 1972 (昭47) 沖縄県スタート
- 1973 (昭48) OPEC石油輸出制限・石油ショック
- 1974 (昭49) 高校進学率91%に (55年は52%)
- 1975 (昭50) 国際婦人年
エンゲル係数は33.9%に (55年
は51.5%) 所得水準向上の結果
- 1977 (昭52) 女性の平均寿命77.95歳、男性72.
69歳で共に世界第1に
- 1980 (昭55) 国連婦人の10年中間年世界会議
コペンハーゲンにて開催

インタビュー

小林 和子さん (左)
(豊島区親子読書連絡会会長)

柳川 昌子さん (右)
(巣鴨親子読書会会長)



豊島区の親子読書会

1960 (昭35年)、児童文学者で鹿児島県立図書館長の椋鳩十が唱えた「親子20分読書」を機に、まず家庭で母が子に本を読み聞かせそれを地域の親子読書会へと発展させていく運動が全国的にひろまってきました。70年代には親子読書運動が高揚し、相互の経験交流を図るため「親子読書地域文庫全国連絡会 (親地連)」も結成されました。

当時豊島区には区立図書館が3館、豊島図書館 (現在の分庁舎)・巣鴨図書館・千早図書館がありました。それぞれの図書館の職員が、児童室をよく利用する母親たちに「親子読書会」をつくることを勧めました。1970 (昭45)年豊島親子読書会 (のちの池袋読書会) 1972 (昭47)年巣鴨親子読書会、1978 (昭53)年千早親子読書会ができました。1979 (昭54)年には、豊島区親子読書連絡会 (初代会長 大松幾子さん) もつくられました。その後区立図書館の増設に伴い、親子読書会は7団体になります。その経緯・活動の様子は、昨年亡くなられた大松幾子さんの『読書会は花あかり』にいっきと綴られています。

大きなバックから次々に取り出されたのは『すずきみみずく』('79年) <「池袋親子読書会」の版面の紙芝居>、『このゆびとまれ』('89年) <「巣鴨親子読書会」の親子で調べ、手書きの絵がいっぱい>、『とげぬき地蔵さま』('93年) <地元に伝わる昔話>、『豊島区郷土かるた』('83年) <「豊島区親子読書連絡会」の親子で区内を歩き、学んだ歴史を取り上げ精選した手作り>、『豊島区郷土すごろく』('98年) <郷土かるたに漏れた場所も盛り込んだ>や『豊島区郷土すごろくガイドとしま区いちにっさんぽ』('00年)。どれも活動の中で生まれた思い出いっぱいの品々だ。

毎月1回の例会は親子で第4土曜日の午後1時に巣鴨図書館に集まった。小さい子たちには当番の母親による3冊の読み聞かせと工作、大きい子たちは事前に本を読んできて、中身についての話し合いを行った。親は第2土曜日にも集まって、例会の準備と勉強を兼ねた。

そして、小林さんは今年3月に懐かしく、嬉しい体験をした。約20年も前に親子読書会で活動していた二人の子どもが突然に訪問してきたのだ。当時の思い出をあふれるように語り、名残惜しく見送るのを振り返り行く二人の姿はまるで絵本の1ページのようであり、「親子読書会」では親も子もいろいろな関係を結びながら豊かに成長できたと実感する出来事の一つであった。

現在は会員数が減少し、以前のような活動は行えなくなっているが、社会的には学校での読み聞かせタイム、朗読の見直しなど子どもの本への注目度が増しているのは嬉しい。

更にバックから取り出したのは、読書会とは違う仲間と「豊島区史資料編三」に収録されている公文書などの中のおもしろい記事を子ども向けのお話に自费出版した『としまの村ばなし』を楽しくみせるために工夫したグッズ、紙芝居や折り絵本である。これを現在は児童館・区民ひろば・ことぶきの家などで読み聞かせをしている。

最後に豊島区女性史『風の交叉点4』の一節に～読書会の会長だった女性たちからの聞き取りによれば、家庭から外へ出るようになって、家族、特に「嫁は家にいるもの」と思い込んでいた夫の母の理解を得るのが大変だったようだ。それでも嫌みに耐えて睡眠時間を減らしてでも家事をこなして活動をしたという。初めは子どものためと活動を続けた女性たちはいつしか自分のためであることに気づく。生き生きとした自分、生き方を探るようになった自分を発見したのである。～と述べられている。

「親子読書会」は子どもたちを育んだだけでなく参加した母親たちの自己発見の機会になり、様々な地域・社会へと活動を広げる土台になった。(取材 有泉)

한국의 동화들려주기

「ハングゲ ドンファ イルゴジュギ」

韓国における読み聞かせ

李 侖姫 (イ ユンヒ)

韓国の母親たちと学校の先生はどういう形で子どもたちに読み聞かせをしているかということですが、インターネットで韓国の読み聞かせに関する資料を調べたら、私は長い間忘れていた一人の先生の事を探し出せました。少なくとも韓国で幼年時代を経験した人なら誰でも知っているはずの「方定煥 (バン・ジョンファン)」(1899年～1931年)先生です。30年あまりの短い生涯に先生が残した当時の児童文学界への足跡は実に遠大なものでした。先生が中心となり「子どもの日」を制定したことや1923年3月に創刊された初めての児童雑誌である『オリニ (“子ども”の意味)』のことはもちろん、1925年に3回目の子どもの日を記念して開催された「童話口演大会」は、それまでには単なる「昔話」だったものを立派な文学の一ジャンルとして芽生えさせた歴史的なことだったのです。しかし、大会はその後国の情勢などにより、長い間開催することができなかつたようです。そして1976年11月、先生の遺志を受け継いだ後輩の児童文学者らが主軸になり「全国母親童話口演大会」が開かれ、今日まで韓国における読み聞かせの活動を支えていくこととなります。さらに、この大会で入選した母親たちが集まり自発的に組織した「セックドン母親会」という団体は、全国子供童話口演大会のサポートだけでなく全国の幼稚園・学校・老人福祉会館、ひいては在外国民のための童話口演・演劇・キャンプ・セミナーなど様々な活動を積極的に行っています。

家庭内における読み聞かせの変化としては、IT技術の進歩に伴い育児をしている若い主婦層をターゲットに「オーダーメイド童話」という出版サービスが流行っているようです。このサービスとは親がサイトに掲載されている数々の童話の中から1つを選び、子どもの名前や写真ファイルを添付し本の出版を依頼すると、読み聞かせ用としてきれいに編集された、世界でたった1冊だけの自分たちの子どもが主人公になり、しかも顔までちゃんと子どもの写真になっている絵本が出来上がるそうです。まったく育児とは無関係ともおもわれがちなIT技術を親子の温もりが伝わってくるようなサービスとして活用できたことは、かなり興味深いことでした。

学校教育でも改めて昔からの読み聞かせの活動を再認した動きがみられました。毎日朝礼の時間には先生と生徒達が教室から出て、一緒に校庭を散歩しながら読み聞かせや瞑想をする時間を設けています。また、図書館・学校・幼稚園などでボランティア活動の一環として読み聞かせをしてくれるおじいさん、おばあさんたちの活躍も目立つようになりました。核家族化の中で経験することの少ない祖父母の読み聞かせは成長していく中で何らかの貴重な体験になると思います。読み聞かせの活動を通して子どもとのコミュニケーションを大切にしていることがわかりました。

◆ 李 侖姫さん プロフィール ◆

上智大学大学院 総合人間科学研究科
博士前期課程 社会学専攻
3年前に来日。エポック10講座の参加をきっかけに「えぼっく・めいかー」の編集委員となる。

こんな本はいかがですか？

「読み聞かせ」の活動をしている方たちに
お勧めの本、好きな本をあげてもらいました。



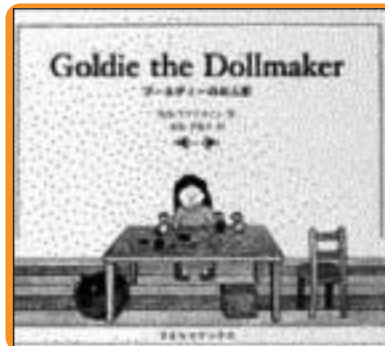
ザガズー

ZAGAZOO

じんせいってびっくりつづき

クエンティン・ブレイク 作
谷川 俊太郎 訳
好学社
定価（本体）1500円

苦勞を感情や行動で表現する子どもを代弁



ゴールドィのお人形

M.B.コプスタイン 作
末盛 千枝子 訳
すえもりブックス
定価（本体）1500円

心を入れて生きることの大切さを感じる作品



ちいさいおうち

バージニア・リー・バートン 作

石井 桃子 訳
岩波書店
定価（本体）1600円

どんどん変わる周りの状況、本当に大切なものは…

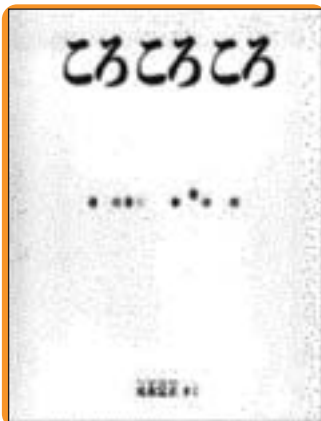


うちのちから

똥은 참 대단해

ホ・ウンミ 作
キム・ビョンホ 絵
しん もとか 訳
主婦の友社
定価（本体）1300円

地球上の生命がつながっていることを学ぶ



ころころころ

元永 定正 作
福音館書店
定価（本体）743円

きれいな色玉たちが、ころころと色々な場所をころがって…



おつきさま こんばんは

달님 안녕

林 明子 作
福音館書店
定価（本体）700円

お月さまに語りかけていきます。韓国語や英語にも翻訳されている



めっきらもつきら どおんどん

長谷川 摂子 作
ふりや なな 絵
福音館書店
定価（本体）800円

ご神木の穴に吸込まれ不思議な世界を冒険

朗読されている方たちからは
次の作品があげられました。

「真鶴」志賀 直哉
「ろくでなしのサンタ」浅田 次郎
「とんかつ」三浦 哲郎

いろいろなところで読み聞かせを行っています

場 所	プログラム名	曜 日	時 間
区民ひろば駒込	駒込キッズお話し会	毎週金曜日	午前11時40分～
区民ひろば南大塚	絵本玉手箱	毎月1回木曜日	午前10時30分～
区民ひろば富士見台	おはなしぱたぽん	毎月1回水曜日	午後2時30分～
区民ひろば高松	おはなし宅急便	毎週水曜日	午前11時45分～
巣鴨第1児童館	幼児体操と絵本の読み聞かせ	毎日	午前11時45分～
◇	ふわふわぺったん	毎月1回木曜日	午前11時30分～
池袋第2児童館	おはなしでてこい	毎週月曜日	午後2時30分～
南長崎第1児童館	おはなしボックス	毎月第3火曜日	午後3時30分～
長崎第2児童館	おはなしなーに	毎週金曜日	午前11時30分～
千早児童館	おはなしぱたぽん	毎月第3金曜日	午後4時～
要町第1児童館	千早図書館おはなしの会	隔月1回	午前11時45分～
中央図書館	おはなしかい	毎週日曜日	午後2時～
駒込図書館	おはなしのはこ	毎週土曜日	午後3時～
巣鴨図書館	おはなしぴよぴよ	最終水曜日	午前11時～
◇	ほんのじかん	毎週水曜日	午後3時～
上池袋図書館	さくらんぼ赤ちゃん おはなしかい	最終水曜日	午前11時～
◇	さくらんぼ おはなし会	毎週水曜日	午後3時～
池袋図書館	おはなしたんぽぽ	毎週土曜日	午後2時～
千早図書館	おはなし ねえよんで	毎週水曜日	午前10時30分～
◇	ほんどこ おはなしかい	毎週水曜日	午後3時30分～
雑司が谷旧宣教師館	『赤い鳥』を語り継ぐ おばあちゃんのおはなし会	毎月第1土曜日	午後2時～

※ 詳細は各区民ひろば・児童館・図書館・雑司が谷宣教師館へお問い合わせください。

編集後記

- ・取材をさせていただいて新たな気づきと学びがありました。(M.I)
- ・取材での出会いや、編集スタッフとの交流を大切にします。(M.A)
- ・「読み聞かせ」は人と人との触れ合いを作り出す、お互いの愛情が感じられる空間を作り出すパワーをもっているんだな?ということ強く感じました。(Y.I)
- ・忘れかけていた「学びたい」という気持ちを刺激してもらえたことに感謝しています。(H.O)

平成19年度後期 講座開催予定

エポック10シネマ (10/17・11月・12月・1月
2月・3月)

男性向け講座—全2回—

(①10/13 (土)・②10/27 (土))

子育て講座—後期3回—

(④11/25 (日)・⑤1月・⑥3月)

区民企画講座 (1月)

男女共同参画都市宣言記念講演会 (2月)

※詳しい内容は、広報・ちらし・ホームページ
等でお知らせいたします。

共催事業のご案内

◆ ゲシュタルトセラピー・ワークショップ ◆

～しなやかな人間関係を作るために～

10月18日 (木) 午前10時～13時

NPO法人ゲシュタルトセラピー普及協会

◆ 思春期の子どもの世界 IV ◆

11月9日 (金) 午前10時～12時

立教大学交友会レディスクラブ

◆ 男女共同参画苦情処理委員からの報告 ◆

平成18年11月20日発行広報の人権啓発特集で、
女性の人権についての記載漏れがあったとの苦情
申し立てを受けました。

当委員で本件を慎重に審議し以下のような意見
表明をしました。

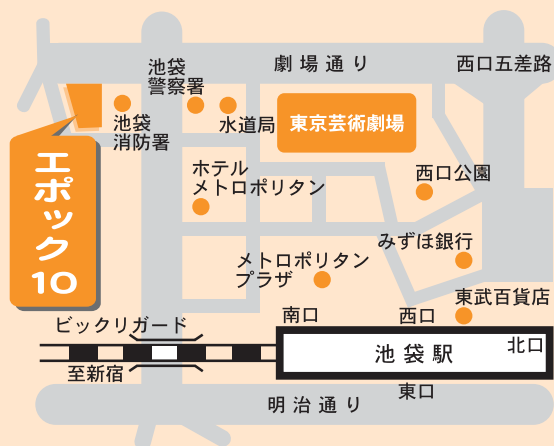
1. 毎年12月の人権週間にあわせた「広報とし
ま」の人権意識啓発記事においては男女共同
参画ないしは女性の人権の問題を取り上げる
ように配慮されたい。
2. 「広報としま」をはじめとする区の広報活動
においては、区民・事業者を含めて今後なお
一層男女共同参画の意識啓発に努めると共に、
男女共同参画の視点に立った広報活動をされ
るよう留意されたい。

豊島区では「苦情処理委員」制度を設けています。
是非ご活用ください。

エポック10相談室
TEL:03 (3980) 7830

- 一般相談は、開館日の午前9時～午後5時までです。
- 専門相談は、女性の医師・弁護士・臨床心理士・カウ
ンセラーが相談に応じます。
- 専門相談は予約制です。※どの相談も無料です。

相談名	曜日	時間
法律1	第1金曜日	午後1時30分～4時30分
法律1	第3金曜日	午後6時～9時
からだ	第2金曜日	午後5時～8時
こころ1	第2水曜日	午後1時30分～4時30分
こころ2	第4火曜日	午後6時～9時
DV	第3火曜日	午後1時～4時



豊島区立男女平等推進センター
(エポック10)

〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4
豊島区立勤労福祉会館3階
TEL: 5952-9501 FAX: 5391-1015
Eメール: A0011400@city.toshima.lg.jp

開館時間

月～土曜日午前9時～午後9時と
毎月最終月曜日の前日(日曜日)の午前9時～午後5時
※ただし、毎月最終月曜日・祝日は休館です。

〈発行〉豊島区
〈印刷〉有限会社 オール印刷工業
〈挿絵協力〉修理しをりさん